

切り取ってご利用ください

特別企画・美学講座「美学がいざなう芸術のよろこび 番外編」

このたび、大好評を得て終了した連続美学講座「美学がいざなう芸術のよろこび」の番外編として、3人の美学者による特別講座を開催します。

芸術という営みの魅力についてのお話を存分に聞くことができますので、ぜひご参加ください。



左から宮川氏、櫻井氏、早川氏

と き：3月13日(日) 午後2時～4時  
講 師：宮川達氏(成城大学・首都大学東京・東京都立大学非常勤講師)、櫻井修氏(成城大学・東京工科専門学校非常勤講師)、早川恭只氏(静岡文化芸術大学・東放学園映画専門学校非常勤講師)

会 場：美術館喫茶室(カフェ アン・レーヴ)  
参 加 料：500円(飲み物付き)  
定 員：20名(先着順)  
参加方法：美術館へ電話で申し込み

◆展覧会「出会いの美術Ⅱ 絵画を楽しむエトセトラ」  
会 期：2月19日(土)～4月3日(日)  
開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
入 館 料：一般…700(300)円、大学・高校生…500(200)円、小中学生…無料 ※( )内は市民割引券を利用した際の料金です。

KOSUGI HOAN  
MUSEUM OF ART,  
NIKKO  
小杉放菴記念日光美術館

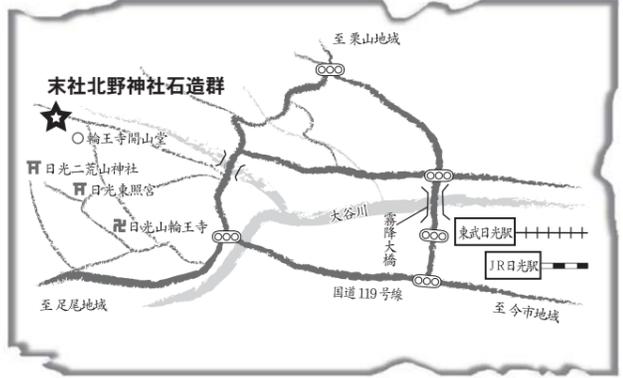
日光市の文化財 ④3

石造群北野神社末社



【種別】有形文化財  
【所在】日光市山内  
平成15年7月23日旧日光市指定  
輪王寺開山堂から北へ一〇〇メートルほど歩いて行くと、石燈籠をはじめとした石造群が見えてきます。それらが今回ご紹介する末社北野神社石造群です。

北野神社は二荒山神社末社として鎮座しています。祭神は菅原道真公であり、寛文元(一六六一)年に大宰府天満宮より分霊を移し祀られたと伝えられています。石造群は石燈籠のほか、石祠や石鳥居など数多くの石造品から形成され、また社殿の背後には梅鉢の紋を彫った巨石があり、当初は信仰の対象として祀られたと推定されています。



今回の石造群は江戸前期から後期にかけて形成されたと考えられ、日光における最古の天神信仰(道真公の神霊に対する信仰)の史跡であることから貴重な文化財といえます。山内にはほかにも、日光市指定の文化財が数多くあり、ぜひご覧ください。

歴史民俗資料館通信

日光市中央町29-1(市図書館隣) ☎22-6217  
開館時間 午前9時～午後6時(入館無料)  
休館日 毎週月曜日、祝日



◆常設展示資料紹介⑥ 弥生土器

写真の弥生土器は中小代A遺跡と岩崎遺跡から出土したものです。いずれも東北地方南部でよく見られる渦巻き文様が描かれ、弥生時代中期後半に位置づけられます。しかし両者には線の描き方に違いがあり、前者は一本ずつ後者は二本の線が同時に描かれ、その違いから後者(岩崎遺跡)のものが少し新しいと考えられています。



中小代A遺跡の弥生土器(左)と岩崎遺跡の弥生土器(右)

◆常設展示資料紹介⑥ 嘉暦四年銘一尊種子板碑

板碑は鎌倉時代から17世紀初めにかけて在地の領主層が両親の追善供養や、生前に自分の冥福を祈る逆修供養のために建てた石塔です。写真の板碑は土沢(杉ノ沢)で出土したもので、嘉暦4(1332)年の阿弥陀如来を表す種子「キリク」が彫られています。ほかにも市内6か所で発見されている板碑は、いずれも秩父産の青石(緑泥片岩)で作られ、日光市指定の文化財となっています。



嘉暦四年銘一尊種子板碑

◆催し◆  
◆移動博物館「岩石・鉱物の世界」  
3月20日(日)まで  
◆古文書初級講座  
「日光の歴史を古文書で読む」  
2月中の毎週日曜日(全4回)

市民文芸

川柳 選者 山本都留米

頼まれた事忘れたことを言い出せず 石川みかん  
残してはもったいないと腹に詰め 小島幸子  
濡れ落葉グチも煮込んで今日も鍋 塚原トモエ  
発車ベルかけ込み乗車ほつとする 植田義雄  
新年の御神酒に託す世の平和 大堀 満  
内面も外面もなく日向ぼこ 白土武夫  
金次郎電子読者にあきれ顔 渡辺春男

俳句 選者 伊藤 清

浮寝鳥流れに一途身をまかせ 渡辺ミチ子  
ラグビーの熱気膨らむ競技場 櫻澤総一  
冬帽を片手に持ちてお辞儀する 酒井智恵子  
朝寒や杖の身背の丸みます 徳本英子  
ギョーザ像サンタクローズの衣着て 福田美代子  
男体山の雄姿に語る冬日かな 鈴木キ又子  
柘のするどき葉かげ花白し 井口愛子

短歌 選者 阿久津伸一

ただならぬ世を象徴のごと山のひだ 黒き雲わきおどろおどろし 大出喜代  
歳晩に部屋片付けんと思えども馴染みの品々捨てがたくいる 高野恒子  
空と水の間彩なす紅葉の湖畔に立てば我を忘るる 北崎 君  
逝く夏を感じしたるか昼下がりに生命しほりて蝉は鳴きつぐ 大森トミ子  
裏町のネオンも消えて人通り絶えたる空に細き月照る 植田義雄  
いく月か同じ悲しみもつ友の抱く傷痕われより深し 村田登美  
新年の福を招きに宮参りよろずの神の今在す時 湯沢登久栄

作品を募集しています!

川柳・俳句・短歌を募集しています。氏名(ふりがな)、住所、電話番号を明記して、ご応募ください。  
応募先及びくわしくは 秘書広報課 広報広聴係  
☎(21)5135・FAX(21)5109